

国鉄35万人体制を粉碎する反合方針を!



79.12.7
No. 294

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)三五八・九(公衆電話)22七二〇七



前号に引き続き、第三回定期大会の論議を深めるために、動労千葉が総力をあげて闘い抜いている反合・三里塚ジェット闘争について、反合闘争の側面から、討論の素材を提供してゆきたいと思えます。

おそろべき三五万人体制攻撃

いま、国鉄の労働者には「三五万人体制」という恐るべき合理化攻撃がかけられてきています。これは国鉄労働者には直接的に「乗務員運用効率の私鉄以上のアップ」と「地上勤務者の仕事を可能な限り外注化(下請化)し、残された国鉄労働者に対してはK形勤務その他想像もつかない合理化を強要する」という狙いを持ち、同時に、利用者(人民)に対しては「新幹線による都市間旅客輸送」と「大都市圏の通勤・通学輸送(大企業のための労働者の移動)」と「武操型のトータルスシステム化された貨物輸送(大企業と軍事輸送のための貨物)」だけに国鉄業務を切り縮め、この体系から外れたローカル線などは全て切り捨て、大巾な運賃・料金値上げによる大衆収奪を強めるという合理化攻撃です。

さらに、この合理化攻撃を強行することを通して、現状において労働者にとって最も有利な国鉄の共済制度を破壊し(すでに年金支給年齢引き上げなど具体化されつつある)、年金制度や老人医療など高齢化社会化する日本の福祉制度全体をも改悪し、搾取を強めてゆこうとしており、単に国鉄労働者のみならず、全労働者、全人民的な課題でもあるわけです。

「反合」を投げ棄て、「再建路線」に走る国鉄労働運動の危機

しかし、55・10を通してこの具体的合理化計画が強行されようとしているとき、全労働者の、全人民的闘いの戦線が構築されているでしょうか。国鉄労働者の総決起のための方針が正しく提起されているのでしょうか。

全くゼロです。当事者である国労、「動労」でさえも「闘う、闘う」というカケ声ばかりで、生産点で構えた実効ある闘争方針を何等提起し得ないでいる。というよりも、「国鉄に役員(監査委員)を送り込(国労)」「んだり、「われこそは最も左翼であり闘闘的である」と自己陶醉の夢をむさぼり、正しい路線を対置して闘おうとする者に対しその夢を壊す者だとばかりに暴力で脅かし、しぼりつけ、まやかしの「合理化推進用の経済学」をもって「安定宣言」で国鉄労働者を当局に売り渡している。



「本部」反動暴力集団)のが現状です。

彼らは、遂に、動労千葉の二波にわたるストライキ決起に「反革命のストだ!」「ストに反対しよう!」と叫び、多数の暴力集団で職場あらしをやるほどまでに反動的本性をさらけ出しました。

反合と三里塚を結合し た政治闘争で勝利せよ

動労千葉はこの間、この恐るべき国鉄合理化を予測し、動労内において船橋事故闘争をはじめとする反合・運転保安闘争を闘ってきた総括に踏まえ「武操合理化の恐るべき実態と敗北した闘いの総括をしっかりと行い、真に闘える反合方針を確立すべきだ」「53・10貨物合理化を『安定宣言路線』で認めてしまうことは誤りである」と主張し、いかなる暴力にも屈せず闘い抜いてきました。そして、「三五万人体制」合理化が打ち出されて以降、「特退者の半分以上し三分の一の新採しか採用しない」という運輸省・国鉄当局の計画を粉碎する闘いと、具体的に職場にかけられてくる合理化計画をひとつひとつはね返してゆく闘いを同時に闘うという方針を明確にし、「反合」と「三里塚・ジェット」を職場生産点での実力闘争として結合した政治闘争として、10・22、11・1のストライキをはじめとする闘いを闘ってきました。動労千葉の「反合・三里塚ジェット闘争」は、体制的危機の中でファッシュョ化する支配階級の攻撃をはね返す全人民的戦線を構築する可能性を大きく秘めた闘いなのです。同時に、変質せる動労を変革し、真の反合闘争を復権し、自らの生活と権利を守りぬく職場生産点での大衆的実力闘争を大きくよみがえらせる突破口をつくるものです。自信と確信をもって二期工事阻止・備蓄ゼロ、国鉄三五万人体制粉碎・動労大改革・戦闘的労働運動の再生へ向けて闘い抜こうではありませんか。そのための方針を確立する12・11、12第三回定期大会の成功を圧倒的代議員・傍聴者の結集をもつてかちとってゆこう。

4 真に労働者を
守る労働運動
特集

12.16 三里塚現地大集会

戸村委員長追悼集会

正午・三里塚第一公園